予防接種・ワクチンのリスクとベネフィット

国立感染症研究所感染症疫学センター第三室　多屋　馨子

KEY WORDS
●予防接種法
●感染症発生動向調査
●感染症流行予測調査
●予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会

Risks and benefits of immunization.

Keiko Tanaka-Taya（室長）

はじめに

ワクチンは，感染症の予防に最も特異的であり，かつ効果の高い医薬品（生物学的製剤）である。ワクチンを接種することを予防接種という。接種の方法には，皮下接種，筋肉内接種，経口接種があり，BCGのように管針を用いて経皮接種する場合もある。さらに，経鼻接種や，皮膚への貼付などの方法で接種するワクチンの開発などが進められている。

わが国では，予防接種法に基づく定期の予防接種（以下，定期接種）と，予防接種法には基づかないが，医薬品医療機器法（旧薬事法）に基づいて製造販売承認されたワクチンを接種する，定期外接種（以下，任意接種）がある。なお，定期接種は，政令で対象年齢が定められているため，その年齢以外で接種する場合は任意接種となる（**表１**）。

予防接種は体調のよいときに受けるのが原則であるが，接種を受けたくても受けることができない場合がある（接種不適当者）。一方，基礎疾患をもっていても，医師の判断で注意しながら接種可能な場合もあり（接種要注意者），接種可能かどうかの判断には，丁寧な予診，接種前の検温，診察が必要となる。また，接種後30分は，接種医療機関で体調を観察し，特に著変がなければ帰宅可能となるが，この間に，接種後の注意点などを説明できると有意義に時間を過ごせると考える。

Ⅰ．ワクチンの有効性

１．感染症発生動向調査[1)]

感染症法に基づく感染症発生動向調査では，１類～５類感染症111疾患について，全数あるいは定点サーベイランスが実施されている。このなかで，ワクチンが国内で使用可能であるvaccine preventable disease；VPDを**表２**に示す。なお，**表２**に示した感染症以外にも，感染症発生動向調査対象疾患のな

SAMPLE
Copyright(c) Medical Review Co.,Ltd.